

1/16

「測量にあたって、まず自然の美しい場所や自然が最も景観良く見える場所を探し出した上で、どこに道をつければそこにたどりつけるかに工夫を凝らした。」

サミュエル・ランカスター

コロンビアリバー歴史ハイウェイ設計技術者

コロンビア

リバー

歴史

ハイウェイ

人々の深く愛するこの美しい土地に築かれた、アメリカ国宝の建築物。展望場所はすべて保護され、自然と完璧に融和する意匠と素材のみごとな美しさ。その完成度ゆえ世界中から人を呼び寄せてやまない、コロンビアリバー歴史ハイウェイ－ハイウェイの王者－絶景のコロンビアリバー・ゴージへの旅をいざなう。初めて訪れる人も、この道を知り尽くした人も、このハイウェイを通るたびに心を洗われる新鮮な出会いがある。

Map

コロンビアリバー歴史ハイウェイ
& 州立ハイキングコース

1. 過去のこだま
2. 石造建築の詩
3. 過去への架け橋

4. トラウトデール
5. 18 番出口
6. ルイス&クラーク
7. サンディ川
8. ダブニー
9. コーベット
10. ポートランド・ウィメンズ・フォーラム
11. クラウンポイント/ビスタハウス

12. ラトゥレルの滝
13. シェパーズ・デル
14. 28 番出口
ブライダル・ヴェール
15. ワキーナ
16. マルトノマの滝
17. オネオンタ・ゴージ
18. ホーステイルの滝
19. ドズソン/エインズワース 35 番出口

20. 凡例
21. オレゴン州立公園
22. 合衆国森林サービス
23. 有料
24. 歴史ハイウェイ車両通行区域
25. ハイキング&サイクリングのみ

コロンビア川沿い一帯の絶景は、太古の昔からその美しさの価値が認められ、後世に受け継ぐため大切に保護されてきました。コロンビアリバー・ゴージは 1986 年に合衆国の国定美観地区第一号に認定され、風景、文化、自然、レクリエーションが保護重視されるとともに土地開発や商業的發展は慎重な検討の対象となる地区です。政府と民間が一体となって保護育成を目指すコロンビアリバー・ゴージ国定美観地区は、地元では「ゴージ」の愛称でも親しまれています。この地区の歴史は、川や陸路を米国太平洋岸北西部を越えて取り引きに往来したアメリカ原住民の時代にさかのぼりますが、実際の記録としてはわずか 200 年ほど前にゴージの原住民、西部の大河、自然の驚異などを記した探検家ルイスとクラークの手記が最古のものとなっています。彼らの記した言葉は東部の人々の心に、はるか太平洋岸北西部のロマンと希望をかきたてるものでした。1850 年頃にはオレゴン・トレールと呼ばれるルートが発達し、コロンビア川周辺の険しい道のを越えて開拓者達が居住し始めました。小滝や急流には連水陸路や運河、水門などが作られ、林業や漁業の成長に伴って鉄道も建設されました。やがてモデル T の愛称で知られる初期の自動車が米国北西部にまで普及する頃には、道路の建設も検討されるようになりました。

コロンビアリバー歴史ハイウェイはまた、構想家、民間指導者、有能な技師、優れた職人達の足跡をたどる道でもあります。今日のような大型建設機器やコンピュータ設計を一切使わず、不可能といわれた場所に人力、馬力、当時最新の機械を駆使して初めての舗装道路がつながり、土地の自然を生かしながら文化発展を促す美しいハイウェイが生まれたのです。当時、道路の発展を熱心に説いていた起業家弁護士サム・ヒルは、このコロンビアリバー・ゴージには単なる道路を超えた、ヨーロッパの美しい道路にもひけをとらないハイウェイの建設を構想し、エンジニアのサミュエル・ランカスター、民間リーダーのジョン B. イーオン、サイモン・ベンソン、ジュリアス・マイヤー、ヘンリー L. ピトック、CS ジャクソンなどとともに、コロンビア川を高く見下ろしカーブしながら伸びる道路作りを率先しました。起工は 1913 年、1922 年にはポートランドからザ・ダルズまでが舗装道路となりますが、その後年月を経るうちに近代ハイウェイの増設によりトンネルは埋められ、橋は壊され、あちこちでこの美しい道路は変形されてしまいます。今日、多くの人々の努力により復旧をみた当コロンビアリバー歴史ハイウェイは車両走行の可能な箇所と、ハイキングやサイクリングに適したかつての廃線道路、すなわちコロンビアリバー歴史ハイウェイ州立ハイキングコースの 2 つの形態でご利用いただけます。

1. ウォレンデール
2. ボナヴィル・ダム
3. イーグル・クリーク (川)

4. 州立ハイキングコース
徒歩と自転車のみ

5. カスケード・ロックス

6. 修復と再現

7. ヴィエント
8. スタヴェーション・クリーク (川)
9. フードリバー
10. モージャー・ツイン・トンネル

11. 州立ハイキングコース
徒歩と自転車のみ

12. モージャー
13. メマルース・オーバーロック
14. トム・マコール自然保護区
15. ロウィナ・クレスト
16. ゴージ・ディスカバリセンター
17. ザ・ダルズ

18. あざやかなる対照の地

19. マルトノマの滝の高架橋レールのアーチ

歴史ハイウェイと州立遊歩道ガイド

歴史ハイウェイをたどる旅は、各ポイントで過ごす時間に応じて数時間、または数日間をかけて巡ることができます。車両走行可能箇所とハイキング・サイクリングのみの道路との区別は、地図を参照してください。車両走行可能な歴史ハイウェイルートには道路標識の目印もあります。

旧車道は車両走行できる箇所も道幅が狭くカーブがきついため、大型キャンピングカーなどは通行不可です。道路わきに駐車して観光するときは、貴重品等にご注意ください。路上を往来する自転車や歩行者にお気を付けください。自然のマナーも忘れずに。

「こうして築き上げた美観は、この先何年たっても尽きることなく豊かさをもたらしてくれる。」
サム・ヒル

スターク・ストリートがサンディー川を渡るこの橋 (Stark Street Bridge) は、コロンビアリバー歴史ハイウェイに西から入る二つのルートの一つです。

過去のこだま

サンディー川 (Sandy River) 岸を始点とするコロンビアリバー歴史ハイウェイは、かつて1805年のルイス&クラーク野営地のほど近くを、川辺の木々の合間を抜けながらゆるやかにくねります。当時は東にそびえるオレゴン名所、マウント・フード山が噴火した直後で、上流に降った火山灰の濁流からルイス&クラークはこのサンディー川をどろ沼の川と名づけていました。上方に果樹園やブルーベリー園を臨みながら歴史の町スプリングデール (Springdale) とコーベット (Corbett) へと車で走ると、やがて雪ぼうしの山々が見えてきます。かつての農村の繁栄も色あせて、今はひっそりとハイウェイわきにたたずむ郊外には、大都市の近郊に田園生活を楽しむ人々の住宅が点在します。

ポートランド・ウィメンズ・フォーラム州立公園 (Portland Women's Forum State Park) のシャンテクリア・ポイント (Chanticleer Point) に立つと、コロンビア川とコロンビアリバー・ゴージが目前に開けます。この絶景があのかサム・ヒルをハイウェイ建設の構想に駆り立てたのです。この先の次の景観地、クラウンポイント (Crown Point) をめざして進むと、路上には美しいアーチの組み込まれた石造りの道路ガードや職人の手による石のガードレールなど、歴史ハイウェイならではの建造物を目にするすることができます。石造建築はコロンビアリバー歴史ハイウェイの特徴の一つです。石造をよく観察すると、旧来のものと復旧で追加された箇所を見分けることもできるはずですが、マイル数を標すコンクリートの復刻版道標や白い木造ガードレールなども、元来のハイウェイの様子を復元したものです。ゴージへのドライブがもっとゆっくりペースだった時代の名残りを彷彿とさせてくれます。

Map

1. ルイス&クラーク州立公園
2. コロンビアリバー歴史ハイウェイ
3. 幹線道路 I-84 号線
4. コロンビアリバー歴史ハイウェイ
5. その他の道路
6. 鉄道
7. コロンビアリバー歴史ハイウェイの始点は、トラウトデール市 (Troutdale) のサンディー川東岸、ルイス&クラーク州立公園 (Lewis and Clark State Park) の近くです。
8. コーベット
9. コロンビアリバー歴史ハイウェイ
10. 旧ハイウェイ添いのコーベットの町へは、幹線道路 I-84 号線の 22 番出口 (Corbett Hill Road) を降ります。

「大河コロンビアを上下に眺望できる展望台は、永遠の時と対話しながらたたずんでいる。」

サミュエル・ランカスター

コロンビアリバー歴史ハイウェイ技師

石造建築の詩

コロンビアリバー・ゴージで最も有名な写真撮影の名所、クラウンポイントのビスタハウス (Vista House) は、オレゴン州の貴重な歴史名所です。車道を上りつめた頂上に、オレゴンを開拓した人々にささげる記念碑として建設されたビスタハウスからは、ルースターロックから対岸ワシントン州の山々までコロンビア川を上下に一望することができます。担当建築家エドガー・ラザルスが「ゴージの大自然にささげる社 (やしろ)」と呼んだこの雄大な展望建築物ですが、当初は実は木とコンクリートの簡素な休憩所が建てられる予定でした。先見の明とリーダーシップを持った人々の努力のおかげで、山頂のささやかなトイレ休憩所は今日の素晴らしい建造物へと変貌したのです。ゴージとオレゴンの誇り、国指定名勝クラウンポイントは国の指定史跡でもあります。ビスタハウスは建設当時の精神を受け継ぎながら現在修復工事中です。ビスタハウス友の会では旅行案内や道案内のほか、季節の野の花や地元アーティスト展示会や歴史プログラムを運営しています。ビスタハウスは夏季シーズン中公衆トイレ、展望台として開館していますが、身障者用設備はありませんのでご注意ください。

クラウンポイント頂上の王冠、ビスタハウスはオレゴンへの道を開拓した人々への記念碑。コロンビア川の 360 度の眺望が素晴らしい。

頂上クラウンポイントからふもとまでの標高差は約 180 メートル。道路技師サミュエル・ランカスターは自然の景観をそこなわず、しかも当時の「モダンな」車の限界を考慮した道路作りに工夫を凝らして、川に向かい美しくカーブする 8 の字型の曲線道路を設計しました。斜面は緩やかでカーブも広く、乗用車でも自転車でも快適の下り坂です。カスケード山脈の森林をくぐり抜け、静けさを満喫しながらゆったりと降りるこの下り道はランカスターの創造の普遍性を伝えてくれます。ここではラトゥレル (Latourell) の滝、シェパーズ・デル (Shepperd's Dell) の滝、ブライダル・ヴェール (Bridal Veil) の滝、ワキーナ (Wahkeena) の滝など、次々と登場する滝をお楽しみください。橋や積石のガード壁にほどこされた美しいアーチ、そそり立つ自然の玄武岩を抱き込むハイウェイ、滝に下りる小道など、サミュエル・ランカスターが旅ゆく人を道案内するかのよう、景観の優れた場所に石造アクセントがあしらってあるほか、三つ屋根の家畜倉庫、イギリス田園風の家、歴史深いフォレスト・ホールやブライダル・ヴェール・イン (Bridal Veil Inn) などの建築物もこのハイウェイならではの風情を味わわせてくれます。フォレスト・ホールは現在は個人住居のため立ち入りできませんが、歴史ハイウェイ添いには 1920 年代さながらにドライブがてら立ち寄れるスポットがあちこちにあります。

- A. サイモン・ベンソンが出資購入してポートランド市に公園として寄付したワキーナの滝。現在は森林サービスが管理。
- B. ブライダル・ヴェール郵便局の切手と消印でウェディングの招待状を出すのがオレゴンの花嫁達の習慣だった時代もありました。1887 年開局の同郵便局はオレゴンでも古い局ですが、現在は土曜日のみ開局となっています。写真撮影のスポットにいかが。

Map

1. マルトノマの滝方面
2. ブライダル・ヴェール郵便局
3. ブライダル・ヴェール州立公園 / ビスタハウス方面
4. コロンビアリバー歴史ハイウェイ

ホーステールの滝（Horsetail Falls）では、ハイウェイ路上まで水しぶきがかかることもしばしば。もっとしぶきを、という方ならホーステールの滝のすぐ上のポニーテールの滝（Pony Tail Falls）の散策路ハイキングをお楽しみください。ハイウェイ添いの秘密のおすすめスポットです。

過去への架け橋

マルトノマの滝（Multnomah Falls）まで来れば、ここがオレゴン一の天然観光名所である理由は一目瞭然です。この滝は蒸気船や鉄道で観光客が訪れた 1880 年代には既に自然の観光名所となっていました。今日もそそり立つ玄武岩からあわ立つ池へと約 180 メートルを落ちる水の勢いと轟音にさそわれて訪れる観光客は何百万人を数えます。滝の上を渡る橋のアーチ、出入りの小道に沿った水路、オネオンタ・ゴージ（Oneonta Gorge）やホーステールの滝方面の道を保護する石のガードレールなど、ここでも道路建設の創造作品はしめって苔むした自然とともに私達を取り囲んでいます。オレゴンの思い出として写真や絵葉書、詩や言葉で伝えられ世界に名をはせるマルトノマの滝は、アメリカ北西部のイメージそのものです。ここでゆっくり一時間、またはたっぷり終日をすごしてみてください。1925 年ポートランド市により建設された国指定史跡マルトノマ・フォールズ・ロッジ（Multnomah Falls Lodge）にもぜひお立ち寄りください。まずここでゆっくりと世界中から訪れた人達と付近を散策し、休憩して腹ごしらえしてから次のハイウェイの名所を訪れてください。

オネオンタ (Oneonta) で古い橋の上にたたずむと、時代の進歩に取り残されたトンネルをかなたに見ることができます。新しいハイウェイのルート変更に伴って埋められたもので、木々に隠れて見えにくい季節もありますが、このトンネルをいつか開通させてハイキングやサイクリングできるようにしたい、という支持の声もあるトンネルです。ハイウェイ周辺の見どころの中でもオネオンタ・ゴージは特に自然の魅力にあふれています。滝を落ちる水が真夏の盛りにも空気を循環させて気温をやわらげるため、涼しく湿った土地に生育する植物が 50 種以上も見られる植物パラダイス。峡谷にひっそり隠れたオネオンタの滝までのハイキングは小川の中を通るため濡れる覚悟が必要ですが、ようやくたどり着いた滝の素晴らしさは何ものにもたとえようがありません。使い古しの運動靴とタオルを用意しておくとう便利です。

- A. 歴史ハイウェイには車を乗り入れできない箇所もありますが、だからといってあきらめないで。車でトラウトデールからエインズワース (Ainsworth) まで標識をたどったら、エインズワースの 35 番出口から幹線道路を東向きに走行して 40 番出口で降ります。ここで駐車したら、ツースロック・ハイキングコースの開始点 (Toothrock Trailhead) からハイキングまたはサイクリングでコロンビアリバー歴史ハイウェイ州立ハイキングコースをたどることができ、現在はタナークリーク (Tanner Creek) から東へカスケードロックス (Cascade Locks) までの区間が開通しています。
- B. マルトノマ滝の下滝を歩いて渡れるベンソン小橋からは、滝の上側へとさらにハイキング。
 - 1. ドズソン
 - 2. ウォレンデール
 - 3. コロンビアリバー歴史ハイウェイ
 - 4. ジョン B. イーオン州立公園

Viento。スペイン語で「風」を意味するヴィエントという名前がいかにふさわしいこのあたりですが、アメリカインディアン語の地名が多く見られる当コロンビア川周辺でなぜここだけスペイン名？とお気づきになった方もおられるかも知れません。実はこの地名、当地の鉄道に関連深い Villiard, Endicott, Tolman の三名の頭文字を二つずつ組み合わせて出来上がったただけなのです。ロマンチストにはちょっと肩透かしかもしれませんが、気のきいた名前ですね。

ボナヴィル・ダムを見下ろす「ワシの巣」も復元されました。

修復と再現

歴史ハイウェイが完成して十年余りした頃、ゴージに大きな変化が訪れます。1933年に建設をスタートしたボナヴィル・ダム (Bonneville Dam) が完成し、ザ・ダルズ (The Dalles) の約 6.4 キロ東の一角の水面が引き上げられ、本来の川の自然と景観を永久に水面下に封じ込めてしまったのです。これにより米国北西部一帯は豊かな電力資源と洪水対策の恩恵を受けるのですが、反面アメリカインディアンの伝統文化と生活に深く根ざしていた漁場や貴重な歴史的遺跡も失われてしまいました。今日、I-84号線を西向きに走行すると修復されたツースロックやイーグルクリーク高架橋の一部とともに、木板を渡したインディアンの釣り場も見かけることができます。ボナヴィル・ダムからカスケード・ロックスまでの歴史ハイウェイのルート変更のため 1937年に完成したツースロック・トンネルは、交通の高速性が増した今日も大型トラックを含む I-84号線の東向き車線で活躍しています。

同じ 1930年代、USDA 森林サービスによる米国初のイーグルクリークのキャンプ場で森林サービス施設に水洗トイレが設置されるなど、車で旅をする人々にさらに便利な改善が施されました。太平洋北西部一帯の各地で建設を行った資源保存市民部隊 (CCC) の生み出した素朴な古い建築は現在もイーグルクリークの石壁や暖炉、公衆トイレ、噴水などに見られます。この地域独特の風貌をかもし出すこうした建築物は、大恐慌に打たれた故郷をあとにして米国各地から同プロジェクトに参加したかつての若者達の手腕と足跡を今も歴史ハイウェイのものがたりとして伝えてくれています。歴史ハイウェイで唯一地元の石材で飾られた古い姿をそのまま残す、苔むしたイーグルクリーク橋。キャンプ場もこのすぐ近くです。橋には頑丈な石造りのガードレールと展望場所が設けられ、こんなところにもランカスターの訪れる人々への心配りがにじみでています。ダム建設を一望できるイーグル・クリーク展望所もランカスターのリードを受けて CCCにより建設されました。

第二次世界大戦後の経済成長はオレゴンを横断する貨物への需要を増し、わずかに二車線の歴史ハイウェイの将来にもかげりが見え始めます。1949年に始まった川沿いの新しい道路の建設では、新規埋め立てと既存道路の再舗装により路面が確保されました。1969年に完成したザ・ダルズまでの四車線道路は、事実上エインズワース・モージャー間の歴史ハイウェイのほとんどを新規舗装あるいはルート変更し、分断する結果となりました。これにより、ハイウェイのありし日の姿も人々の心の中からやがて消えてしまったのです。今日はワナパ・ストリート (WaNaPa Street) からフォレスト・レーン (Forest Lane) まで、豊かな地層の変化やコロンビア川の小滝を見ながらカスケード・ロックスの町を抜ける道がかつての歴史ハイウェイをたどります。探検家ルイスとクラークでさえも波に飲まれる運命を恐れて連水陸路を作らせた、そんな急流がこのあたりで、マウント・フード山を抜けるバーロウ・ロード (Barlow Road) が切り開かれたのもこの急流があったためです。夏季はこのにぎやかな波止場からダムや水門、インディアンの漁場などを臨める外輪遊覧船も出ています。

ボナヴィル・ダムからカスケード・ロックスの町までは、ハイキングまたはサイクリングで旧ハイウェイをたどることができます。ボナヴィル・ダム付近のツースロック・ハイキングコースから森林を抜けてブリッジ・オブザ・ゴッズ (Bridge of the Gods) のふもとのカスケード・ロックス・ハイキングコース (Cascade Locks Trailhead) に出る小道には標識もあり、お子様連れのご家族にも安心のコースです。木々の中をくぐりぬけながら昔のアメリカ人の感覚を呼び起こし、歴史に触れてみませんか。

石壁の復元されたツースロック高架橋は、ハイキングやサイクリングに。

Map

1. ブリッジ・オブザ・ゴッズ
2. ボナヴィル・ダム
3. 駐車場
4. 階段
5. イーグル・クリーク (川)
6. ラックル・クリーク (川)
7. 魚のふ化場
8. カスケード・ロックス

9. 幹線道路 I-84 号線
10. コロンビアリバー歴史ハイウェイ (車両)
11. コロンビアリバー歴史ハイウェイ (徒歩)
12. その他の道路
13. 鉄道

昔はドッグ・リバーと呼ばれていたフードリバーは、その源流にちなんで今日の名に変更されました。この川近くでハイウェイ 35号線とマウント・フード・ループ道路に合流する歴史ハイウェイからは、豊かなフードリバー・バレー、マウント・フードの雪のスロープ、ティンバーライン・ロッジなどを訪れることができます。

1996年11月4日、モージャー・ツイン・トンネルの復旧を記念して撮影されたクラシックカー。

あざやかなる対照の地

フードリバー

優雅な豪華さをしのばせるコロンビア・ゴージ・ホテル (Columbia Gorge Hotel) は、近代的なフリーウェイから歴史ハイウェイに再び戻ってフードリバーの町に入るすぐ手前、I-84号線62番出口にあります。このエレガントな建築はハイウェイの推進者でもあるポートランドの民間リーダー、サイモン・ベンソンの建てたものです。国指定史跡の同ホテルは、旅のペースがもう少しゆっくりだった頃の、都会のせわしさを解放されてゴージに静養に来る人のために用意された、そんな過去のひとときを彷彿とさせてくれます。ここからカスケード・アベニュー (Cascade Ave.) を東に町へと向かうと、再び歴史ハイウェイをたどれます。

大河コロンビアを見下ろす小高い丘にある歴史の町フードリバーには、ビクトリア様式建築やイギリス田園風家屋、古びた階段など、20世紀初頭の頃のこの町の賑わいを今も想像できます。坂下に降りると北にマウント・アダムス山、南には堂々としたマウント・フード山が見えます。このフードリバーの町は活発な林業、フルーツで世界に名高いフードリバー・バレーの果樹園農場、野外生活を愛する気風など、昔からゴージの環境がもたらす恩恵を最大に生かしてきた町です。オレゴン初の野外市民音楽フェスティバルを開催するこの町では、文化の歴史も自慢です。昔からフードリバーには過去の良い面を保存しながら未来へと変身する一面がありますが、一昔前に町の活気が下向いたときにも「向かい風に乗って」立ち直りました。今日、オレゴンのウィンドサーフィンのメッカとなり再び活気に満ちたこの町は、風のない日は一日二日待つ甲斐があるほど、色鮮やかにゴージの風を満帆に受けた何百ものウィンドサーファーのスピードとエネルギーは、一見の価値がある眺めです。

モージャー・ツイン・トンネル

フードリバーとモージャーの間の2つのトンネルは、1950年代中頃、新しい川辺のルート開通とともに土砂で埋められたものの、幸いにも破壊を免れました。今日多くのハイウェイ支援者のおかげでモージャー・ツイン・トンネルは再び開通し、一般通行ができるようになりました。現代の車両には幅が狭すぎるトンネルですが、ハイキングやサイクリング道として利用できます。この岸壁のトンネルの見どころは、幹線道路とコロンビア川を一望に見下ろせる眺望の素晴らしさ。長く閉鎖され道ゆく人の興味をそそったこのトンネルは、フードリバーとモージャー間、すなわち降水量の多いゴージ西側と乾燥した東コロンビアリバー高原をつないでいます。これほど短距離にこれほど対照的な気候の土地に、しかも徒歩で踏み入れることのできる、わずか数十分の間にこんなに異なる生態系に出会える場所は世界中をさがしてもなかなか見つかりません。ツイン・トンネルの西側は昔から落石が多く、車や人の被害もありましたが、サム・ヒルとサミュエル・ランカスターの先例にならい、最新技術で設置した美しい建造物が歴史ハイウェイを訪れる人々を守ってくれています。このトンネルの落石保護ガードをご覧ください。歴史ハイウェイの伝統をくんで、今までにない新しい技術を進んで取り入れたガードです。訪れる人々への配慮の伝統を受け継ぐ当コロンビアリバー歴史ハイウェイ州立ハイキングコースは東西両端に案内センターが設けられ、いずれもオレゴンのリーダー、上院議員マーク O.ハットフィールドの榮譽をたたえて命名されています。

モージャー/ロウィナ・クレスト

モージャー・ツイン・トンネル東端から、コロンビアリバー歴史ハイウェイは再び景観ドライブコースとなり、モージャーの町とザ・ダルズとの間 15マイル (約 24 km) は、昔なつかしい白い木製ガードレールがその特徴です。かつて商業でにぎわったモージャーは、今も春の花、大きくみずみずしいチェリー、さらに地元人々の植物への愛着が有名です。毎年モージャー農民共済組合ではセカンド・ストリート (Second Street) にチェリーの出店を構えて観光客を迎えています。

歴史ハイウェイをたどってモージャーを出ると、風景はがらりと変わります。田舎にそぐわずエレガントなメヤデールの旧邸 (Mayerdale Estate)、広い川に浮かぶメマルース島 (Memaloose Island) のインディアン墓地を見下ろすメマルース・オーバーLOOK (Memaloose Overlook) など、昔この土地に住んでいた人々の名残りをみるすることができます。ぼつりと寂しい風情のメマルース島の名前はチヌック族の言葉を死を表すメマラストに由来するもので、伝統的にインディアンの墓地のあった島ですが、インディアンを友とした人の「誠実な人達と共に眠りたい」という願いが受け入れられた白人のお墓が一つだけあります。心を打つメマルースの風景をあとにして歴史ハイウェイはロウィナ高原を上ります。頂上のロウィナ・クレスト (Rowena Crest) からは年間を通じてクラウン・ポイントにも匹敵する素晴らしい眺望を楽しめ、ここからはワシントン州のクリキタット川 (Klickitat River) やオレゴンとワシントンの東部コロンビア流域高原の小麦畑に続く乾燥した丘陵地帯のうねり、いわばアメリカ北西部の「もう一つの顔」を一望することができます。一見不毛で荒れ果てたように見えるこの地ですが、ゆるやかなカーブに目が慣れるにつれ、微妙な色合いを肌で感じ、優雅な自然の動きの豪華さをじっくりと味わうことができます。

ロウィナ高原は春の数ヵ月間、野草の花と自生植物の生命がみなぎりあふれんばかりとなります。各部の標高差と降水量に大きな幅のあるゴージには、幅広い種類の野草が繁殖しており、土地固有の植物も数多くあります。最も目を引くのはバルサムルート (balsamroot)、黄色いひまわり (sunflower)、濃い青紫のルーピン (lupine) など。地元の自慢のゴージの野の花は、訪れる人々にも深い感動を与えてくれます。トム・マコーン自然保護区は学習ツアーに参加できるほか、自由に散策を楽しむこともできます。野草を摘むのはご遠慮ください。ウルシの一種ポイズン・オークの木 (poison oak) にもご注意ください。

ロウィナ高原を抜けると、再びふもとに向けてゆっくりとカーブしながら降下する道路は、風景とドライブの快適さというサム・ランカスターの理想を同時に実現しています。ロウィナ・ループのカーブを終えた頃 I-84 号線越しに見えるのは、格好の風がウィンドウサーフィンやセイリングに人気のイースト・メイヤー州立公園 (East Mayer State Park) と川向かいのダグズ・ビーチ (Doug's Beach) です。

1. フードリバー・ブリッジ
2. フードリバーの町

3. フードリバー (川)
4. マウント・フード山方面

5. 西マーク・ハットフィールド・ハイキングコース
6. 駐車場
7. コロンビアリバー歴史ハイウェイ州立ハイキングコース
8. モージャー・ツイン・トンネル
9. 東マーク・ハットフィールド・ハイキングコース
10. ロッククリーク・ロード
11. モージャー

12. 駐車場

コロンビアリバー歴史ハイウェイの斜面は、5%までに限定してあります。

ロウィナ高原から川に向かって、美しくカーブを描くロウィナ・ループ。

ザ・ダルズ

オレゴンの両極端な風土を結ぶコロンビアリバー歴史ハイウェイは、湿って苔むした西側始点のサンディ川岸と東側のチェノウェス川（Chenoweth Creek）あたりの乾燥した樫の木のサバンナという、オレゴンの二つの顔をつないでいます。歴史ハイウェイを終えてザ・ダルズの町に入るすぐ手前にはコロンビア・ゴージ・ディスカバリセンター（Columbia Gorge Discovery Center）とワスコ郡歴史博物館（Wasco County Historical Museum）があります。当国定美観地区の案内センターとして建設されたディスカバリセンターと歴史博物館では、洪水と地質の変化によりゴージがどのように形成され、どうして土壌がほとんどなくなったのか、この地に住んだ最初の人々の生活はどのようなものだったのか、旅商人や開拓者の物語、牧場主や漁師の声のほか、ゴージの往来交通と商業の歴史などいろいろと教えてくれます。コロンビアリバー歴史ハイウェイをたどり終えたら、さらにロックフォート（Rock Fort）のルイスとクラークの野営跡、ザ・ダルズの壁画と旧跡めぐり、町のあちこちに見られる玄武岩の岩肌の鑑賞、セリロ・ヴィレッジ（Celilo Village）、水面下に埋もれた滝跡、古代のコロンビア川随一の漁場と市場跡などにもぜひ訪れてみてください。このストーリーが始まるずっと前の時代の、土地の人々の息吹を感じることができるはずです。

旅のヒント

コロンビアリバー歴史ハイウェイには、旅を楽しくする案内標識があちこちに用意されています。

コロンビアリバー・ゴージはアメリカの国宝です。ごみを捨てたり草木を手折ったり公共物を持ち帰らないでください。

道路幅は決して広くありません。ハイウェイを通行中の歩行者や自転車に気をつけてください。路面の舗装状態も一定していませんのでご注意ください。

マルトノマ滝の両側の高架橋をはじめ、道幅が約 5.5 メートルしかない橋もいくつかあります。大型車は通れない場合もあります。

マルトノマの滝など人気観光地は夏季の駐車が困難となります。早朝、週日、またはシーズンオフなどがお勧めです。

ゴージには私有地も多くあります。プライバシーの侵害となる行動はご遠慮ください。

公衆トイレは：ルイス&クラーク州立公園、ダブニー州立公園、ピスタハウス、ブライダル・ヴェール・フォールズ州立公園、ワキーナ・フォールズ、ボナヴィル・ダム、イーグルクリークキャンプ場、ヴィエント州立公園、東西のマーク・ハットフィールド・ハイキングコースにあります。

毒ウルシ類にご注意ください。特にモージャー・ツイン・トンネル付近に多く見られます。

歴史ハイウェイの復旧工事はしばらく続きます。工事中はご迷惑をおかけしますが、あしからずご了承ください。

旅行案内センター (visitor information center) はトラウトデール、カスケード・ロックス、フードリバー、ザ・ダルズにあります。それぞれ標識に従ってお進みください。

ハイキングコースや州立公園は有料の場合もあります。マップでお確かめください。

関連機関のご案内

Oregon Tourism Commission (オレゴン旅行委員会)
775 Summer St. NE
Salem, Oregon 97301
800/547-7842
www.traveloregon.com

Oregon Parks and Recreation Department (オレゴン州公園レクリエーション局)
1115 Commercial St. NE, Suite 1
Salem, Oregon 97301-1002
ご案内のみ : 800-551-6949
Reservations Northwest (リザベーションズ・ノースウエスト) : 800-452-5687
www.prd.state.or.us

Oregon Department of Transportation (オレゴン州運輸局)
Portland, Oregon
503/731-8200
www.odot.state.or.us/Region1

Columbia River Gorge National Scenic Area (コロンビアリバー・ゴージ国定美観地区)

USDA Forest Service
Hood River, Oregon
541/386-2333
www.fs.fed.us/r6PNW/columbia

Columbia River Gorge Commission (コロンビアリバー・ゴージ委員会)
White Salmon, Washington
509/493-3323

Columbia Gorge Visitors Association (コロンビアリバー・ゴージ観光案内所)
The Dalles, Oregon
800/984-6743
www.gorge.net/crgva

Friends of Vista House (ビスタハウス友の会)
Corbett, Oregon
503/695-2230
www.vistahouse.com

Columbia Gorge Discovery Center and Museum (コロンビア・ゴージ・ディスカバリセンターと博物館)
The Dalles, Oregon
541/296-8600
www.gorgediscovery.org

Wind and Weather Information (風速と気象情報)
Hood River, Oregon
541/386-3300

この小冊子の内容は他のメディア形式でもご覧いただけます。
ご希望の方は Oregon Department of Transportation
503/731-8200 までお問い合わせください。

写真著作権はすべて Oregon Department of Transportation に帰属します。
懐古写真は手染めのガラススライドを使用しています。